

## 100周年を迎える国勢調査

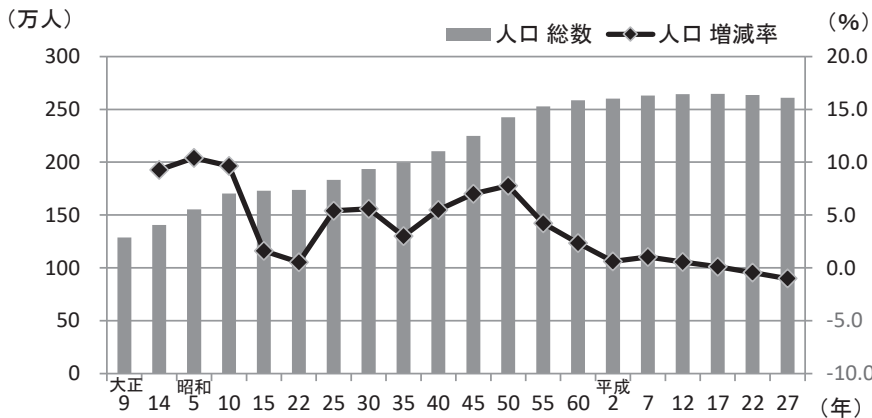
今年2020年は、5年ごとに実施される国勢調査が行われる年です。1月16日に京都府では実施本部を立ち上げ、知事により企画統計課の入口に実施本部の看板が掛けられました。(関連記事 p44)

さて、国勢調査は大正9年(1920年)の第1回調査から数えて100年目の節目を迎えます。この機会に京都府の人口の100年間の推移を国勢調査のデータにより振り返ってみましょう。

大正9年に129万人弱であった京都府の人口は増加を続け、昭和40年(1965年)に200万人を突破し、平成17年(2005年)には国勢調査上最多の264万7660人となりました。その後、2回の国勢調査では減少傾向となっています。(図)

また、世帯数については、大正9年の27万余世帯から一貫して増加し、平成27年(2015年)には115万余世帯となっています。

図 京都府人口の推移



出典：総務省統計局「国勢調査」

さらに京都府の大正9年のデータを詳しく見ると人口の数だけではなく、その年齢構成や産業別人口の割合も大きく変わっていることがわかります。(表)

表 京都府人口の内訳等の比較 (大正9年及び平成27年)

年	人口 (全国に占める割合)	人口割合	世帯数 (1世帯当たり人員)	外国人人口	産業(大分類)別人口の割合 (大正9年「本業者」 平成27年「15歳以上就業者」)
大正9年	1,287,147人 (2.3%)	15歳未満 33.0% 15～64歳 61.9% 65歳以上 5.0%	274千世帯 (4.5人)	2,011人	農業 32.6% 工業 31.2% 商業 18.1%
平成27年	2,610,353人 (2.1%)	15歳未満 12.3% 15～64歳 60.2% 65歳以上 27.5%	1,151千世帯 (2.2人)	43,949人	農業、林業 2.0% 製造業 15.9% 卸売業、小売業 15.7%

注 平成27年の人口割合は年齢不詳を除く。世帯数の大正9年は普通世帯、平成27年は一般世帯。

出典：総務省統計局「国勢調査」

今回ご覧いただいたのは京都府の一部のデータですが、国勢調査から日本の国及び地域の人口とその構造等について様々なことがわかります。

総務省統計局では100年の節目を迎えるに当たり、国勢調査の歴史、各回の調査結果の概略とこれ

らにまつわる話題をまとめた冊子「国勢調査100年のあゆみ」を刊行しました。

現在、統計局HPの国勢調査キャンペーンサイト (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/ayumi/>) で閲覧いただけます。是非ご覧ください。